



第144号

ほほえみ

07 12 9

師走。皆さんにとってどんな1年だったでしょうか。「消えた年金」「ねじれ国会」「大連立」「食品偽装」「KY(空気読めない)」「安倍する」「はにかみ王子」「ビリーズブートキャンプ」に「メタボリック」いろいろありました。でも、「そんなの関係ねえ」病気のわが子を「どげんかせんといかん」そして、小泉元総理の「人生には上り坂、下り坂、まさかがある」妙に納得するフレーズでした。来年はうれしい「まさか」があるかもしれません。より良い年にしたいですね。

<第150回 ほほえみの会>

堀越医師、看護師を含め10人の参加でした。

3歳3ヶ月、男の子、悪性脳腫瘍。抗がん剤と放射線治療が進み、帰宅。立ち歩きができるようになりリハビリも行った。が、その日から首のところが痛がって泣くようになった。特に夜がひどく両親が一晩中抱っこしている。診察をしてもらっても様子を見る言われるだけ。元々のMRI検査予定は10日先なので不安と疲労で限界を感じる。

堀越医師に話したところ、すぐに診て貰えるように脳外科に話をしてくれることになりました。また痛み止めの薬も出してもらうことにしました。

また、自宅で困った時に病院に電話しても、電話を回されて、同じ内容の症状を何人にも喋らないといけないという不満も出ました。こうした状況に対して堀越医師は電話をする時は外来の看護師を呼び出して症状を話すのが良い。外来の看護師は内科や外科を理解しているとのことでした。

さらに、治療の合間にディズニーランドへ遊びに行った話もありました。病気の子どもへの対応、バリアフリー対策が出来ていたり、がたかったとのことでした。最近は病気や障害を持つ人への対策が進んではいますがまだまだ社会の理解は十分ではないようです。



小学1年生、男の子、悪性褐色細胞腫。子どもでは世界的に少ない病気。東京の病院で異常が分かり母親が静岡出身でこども病院へ。手術で副腎と左の腎臓を摘出した後、抗がん剤治療も終わり治療は終了した。しかし、東京の学校に復学しようとしたら、校長に断られた。病気の子供が他の子どもとぶつかって怪我をしたとき、加害者の子どもの方が心を痛めてしまう。母親がずっと付き添ってあげれば良いという。本人は学校に行くことを楽しみにしていたので残念。こども病院では復学に際して、医師が手紙を書いたり、直接先生に説明をしたりしている。学校や社会の理解も高まりつつあるので、病院の協力を得て再度校長と相談をしたらどうかという話が出ました。

2歳男の子、悪性リンパ腫。2回目の治療が終了した。1回目の治療での検査結果が良く、安心した。何か食べたいとか家に帰りたいとかぐずるのも元気が出てきた証拠か。

10歳の女の子、血小板の値が低く、脾臓摘出手術をしたが結果が思わしくない。ダウン症で心臓の手術も2回している。検査結果を待つところだが不安。

再度のご連絡 県立がんセンターで研究をしています『がんの社会学』の中で、がんよろず相談Q&A 抗がん剤治療・放射線治療と食事 をまとめた本が出来上がりました。

治療により食欲がない、口の中やのどが痛い、胃が重い、お腹が張る、もたれる、吐き気があるなどの症状があるときに、どんな食事が良いのか、症状別のレシピの工夫などがカラー写真やイラストで分かりやすく解説されています。まだ本はありますので欲しい方はご連絡下さい。お送りします。

みなさま、良いお年をお迎え下さい。

次回 は 1月 13日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>